

次世代治療・診断実現のための創薬基盤技術開発事業 研究開発課題
事後評価報告書

研究開発課題名	創薬技術シーズの実用化に関するエコシステム構築のための調査研究 「創薬技術移転のためのデータパッケージガイドライン提案と、海外先進地域との地域連携による調査実証研究」
代表機関名	国立大学法人京都大学
研究開発代表者名	小柳 智義
全研究開発期間	平成28年度～平成29年度

【評価結果】

優れている

【評価コメント】

大学から企業への創薬技術移転のためのデータパッケージガイドライン提案については、技術移転において必要となるデータパッケージ全体を埋めるのではなく、「Target Product Profile」を明確化し、これに基づいて取得するデータの優先順位付けを行い、計画を立案し、実行することが重要であることを示した。また、アカデミアと企業で使用する専門用語はその意味が異なる場合が多々あることより、共通の専門用語集を使用した技術移転加速の提案を行った。さらに、産学大型提携プログラムの事例研究により、アカデミアの優位性・存在意義として、大学が保有する患者由来生体試料や臨床データへのアクセスや研究者コミュニケーション等が重視されていることを明確化した。海外先進地域との地域連携による調査については、サンフランシスコ・ベイエリア、ボストン地域の調査と連携が実現し、国際的なメンターが構築できたことは評価でき、アカデミア創薬のマインドセットの変化を感じられた。京都大学が中心となり、TPP を用いた個別創薬研究に対するアクセラレーションプログラムの実施など、本事業の成果を日本国内の大学・アカデミアに広げていくことを期待する。

以上